



新字正源抄 日

ホ 2
4802
4



本 2
號 4802
卷 4

冊 五
號 五
函 五

和字正濫鈔卷四



江 へ
吉 け
荏 じん
縁 へん
胞 へん
得 へん
柄 へん
兄 けい
得 けい
等 とう



江 へ

柄 へ

吉 け

得 へ

荏 じん

胞 へ

縁 へん

縁 へん

名 和

和名於盈切
俗云燕尾

假名未考俗よ
へん な と い り

音をかきい
へん 余泉切

和字正濫鈔卷四

烏帽子 えぼし

愛知 えち

和名近江
國那名

依智 いち

和名を以國
周智郡那名

領 えり

假名未考俗流
死物よ六衣く

いし
とり

痞 いり

和名

枝 いた

○ 和名
未考 えり

假名未考
捕魚具

肢 いた

四肢

英太 えい

和名加賀國
加賀郡那名

役 えり

夷 えい

和名假名
共未考

椽 えり

和名

蘆薈 えり

日記

悦哉 えつ

悦余
拙切

○ 和名
未考

えん ね

各文字を知らハカクシムルハアリ

撰 えん

常孫好忠家集一深吸乃きのえをり一
きのえり

ふらふらのえり

燕尾 えん

燕於
見切

怨 えん

怨於
願切

顔娃 けの

和名薩摩
國郡名

榎 けのみ

和名

兄國 けいこ

和名伊勢國
飯野郡の和名

疫 えや

和名人の疫の
音はて疫病也

瘡 えや

和名

龍膽 えや

和名

げまやえやしとやとあよ名付りんまやう
んこれそふんたうつまうたうかもしりり

杓 えや

和名柄振杓柄
ありて振を

閻浮身 えや

古今
一説

閻余
白切

長子 けいこ

日本紀又子にて
子の甲乃足を

蝦夷 えい

日本紀蝦日本紀よ鰈に通して
きごもおひ鰈ありて鰈のやう

似る人なれえい同韻に通してえいとい
めえいりすといを思ふ

蒲萄 えい

紫葛ハ和名にえい
萄のかつハけいとい

鰈 えい

鰈 えい
和名長嘴子
の山志記よ

いさゝをハ尾にいとけい
いの一をえまちと何とて
つなぐいまい考はずけ魚乃尾
よ毒ありけい

くつなぐべしといふ
ぬしとのと通せり

香葉 りぬに
和名おほ
よと和名

の法似たりおのそれなすれを大何と
いふ荏は似て荏をいふと大荏なり

愈 いに
いふすいぬといふく
いふになすす初し

花宴 られのらん心
宴 見切
大角 はらのみえ
和名

鮓 ほえ
和名早きおなれいやを
えよ通りていふを

蕘 こく
日本記をよ
のこゆらり
煮 ひえ
未考 俗よにゆ
ろよやすといふ

あよ

如此

訓ハ皆

保由

吠 ひえ
犬の鳴なり
牛ハ吼。狼ハ嗥

千枝 ちえ
六枝よ位太杜
の插よあり

鷄 ぬに
古事記万
葉和名

○ 未考 ぬく
和名 古事記

葩麻 かえ
和名 韓荏の
ささるりし

鴨柄 かえ
和名 俗鴨柄
いふと信す

聳 そびえ
そびゆそびや
うすしぬす

費 ついえ
いひゆ
いひやす

潰 ひえ
つゆはやすとの費しけ潰のきとけ
ぼーれいといふといふをよ使え

埋

ねえ

未考。但ねやすとら
らくゝあよえを可

轆

ながえ

和名長
柄あり

荊

なまあえのき

和名

萎

なぐし

一万葉あるゆ
なやす

瘡卧

うゝえふちり

日本

紀をき

しし

蘇

のゝえ

和名野荏
るり。跡を

のゝゝ

うめり

呪

のむとあえ

和名
喉笛

のゝゝ。喉ハ舌門の義なるへし。呪の呪くあつて又舌と
吐くは能はるる。笛の穴の指ははるうしてさまよくの

を出すよ似れ
たしとてりしを

小角 らぶこのゝえ

和名

○ 未考
ま名

くゝえ

一万葉あるゆ
ゆとらるる

笛

あえ

日本紀和名。吹くしよさ物をあやす物なれハ
吹吉のゝゝ。又日本紀よ可愛をえしあり。

吹くしよさ物なれ
吹可愛のゝゝ

越

あえ

ゆ

肥

こゝえ

こゆ

○ 未考
ま名

あえ

ゆ

地をこやす
物なれハ

にいん
ちり

竹刀 あをいえ

日本紀
和名

跨 あつしこ

け字輩にハあしこむしよむむをせよか
く踏やうハあつしこむしよむむを
まゝりりこゆゑに死句終のよよてハあつしこ
ゆゑに死句終のよよてハあつしこ

○ 未考 あえ
万葉集のよあゆの突つしよあゆま
らるゑにせよ血をあゆすなむしよ

けしるゑ
肖物 あえりの
日本紀
乃海津

天皇紀よ肖をあえしよあゆハあゆらなり肖此云阿敷
し自にあり。多々く家集原氏地終なむしよあしりの
し信りりしよはし

才 さえ
左以の音をか
くしり。雙六

のさいを万葉よはししよはし

さい一はししよはししよはし

返 さえ
さゆ。天武紀よ潔をせよしよはし
しよむむをかくしよ一萬葉よハ清の字を

はやししよあり。さゆ
しはくするらんあり

左佐良復壯子 さく

らえんちしこ
万葉集のよ月の別名ししり。くまハ
月十六よ天なるやはしら乃小那しつけ

たつし天よあり月しつらるんたれを。後ハ可愛に佩てよ
き男しつありつ。月ハ陰精なれしよ。神ハ男神に
陽なり。日ハ陽精なれしよ。神ハ女神しつ。陰なり。陰陽
の理よたつらよ似しり。釋日本紀よしけるしを回答し

初くぬりしつり。密教に本有の日月八字付にして修生
の智月を時よ明昧あり。智の明昧によりて凡聖乃階位
あり。世の月乃盈缺を見て大小を定め月を積て遂に年
をなすよりこし。理ハ終なるハ陰よ死し。智ハ終けし
陽よ死す。左のよハ陽ありしと終よりしてさよはぼふ
く右乃よハ陰よりしてかつりてよく終つり。大日乃意
迹なるあまおの
つろふつり

榮螺子 さざじえ 和名

捲 さすえ 和名

甲 きあえ 本見なり。乙は本弟

なり。丙丁等これよ折つて佩名哉
と名つらよしをし知へ

消 きえ きゆきやすしえけりけはくさん
なすつて幾要切氣なりあまうめて

宛 えたく 志江切
世なり

蘖 のこえ 和名孫美
のえなり

蕓 いえ 万葉
和名

冷 ひえ ゆのやすお
名は冷酸のよ

鴨 いえどり 和名倍
よのよ

こひすぬりありありいえを通しつり力の字の
下よつらよし。じやすハ冷の一字をよむ時こハ
今冷なり。
此れ准く

とくわいとくわの下の下はしてえとくわ
五音通をり。稗ヒトも乃さヒト冷ヒトのん

飛簷 ひえんむ

和名

比叡山 いえのやま

懐風藻に八裨敷いかくり。藤原贈太政大臣武智麻呂近
江守に於たり。やうく時比山に寺を造り。さ
々々よく零落やうく。ア〜。延暦寺ハ再興
なり。住者をすすみのことよめるよすりて案とん
日えハいえよて比叡ハとんら此假名なり。のえいん
とんらハ和名をやうて音とんらなるなり。タカ
いふたさのよハおれ〜。寸肥前肥後の。り〜ハ火四
なり。を火災なり。を思ゆるよや肥の字を用て

を音と〜して〜よ〜。おき後と〜。い〜
〜。又大比叡社 社ハ松尾と同社乃清社
大山咋社なり。舊事本紀并よ右の紀よんて延
式にも載せしれ。之代々保よ正一位を授けしなり。
るもこれなり。小比叡社
社ハげ社乃のめ社なり
諸兄 もろえ
井手左大臣

萌 もろえ

燃 もろえ

の言な
ろく

ゆりや。万葉に毛伊とよめ
り。冷の字乃〜。い〜
もゆりや。火のもゆり色。まよ本乃わ
ゆり。いさるいお似しれ。わ〜ハい

燼 もろえん

和名燃杖
のさるり

萌黃 もえき

草木のわかし出り時を黄乃やうの
色をかかれいろは似たりぬき

何り
るり

楚 すはえん

和名すり
俗に細く

もさよいふ句
えハ枝なり

酸 すくえり

こゆ

急 衛回會

餌 ゑ

和名并
火あふ

舍 ゑ

箒舎等柄
外切吳音

繪 ゑ

胡擗切。此吳音を
りて和名とせり

詠 ゑい

為令
切

榮華 ゑい

榮為
明切

槐 ゑい

和名

屠兒 ゑし

和名餌取のことなり。屠牛馬肉取鷹
雞餌之義也。殺生及屠牛馬肉取賣者

也。何れも俗に穢多し。かゝりてちりしといふなり。此急
しりるをいふなり。俗に穢多し。かゝりてちりしといふなり。此急

し。又世にさといふといふ也。いしといふ類なり
く。いしといふなり。和名よすれといふなり

大 ゑ

和名大の子ををすゑの
ことといふなり

狗尾草 ゑぬのこ

和名

穿 あふ 佛足石賛の又わ
名銚かつゝあふ

笑顔 あかほ 俗あかほ
あかほ

餌香市 あふ 顯宗紀
播磨

衛我河 あふ のかふ
日

紀の内國

志紀郡

越蘇 あふ 和名越蘇國
紀伊郡名

なりり越于

嘘樂 あふ といふ
日本紀

厥切あつ

よ款ををし同く越す。假名あつ
あふよ惠良惠良とよあふとれるあつ

笑 あふ 附咲状をあふ
万あふよあふ

罇文 あふ 粟石榴あふ
笑乃字よあふ

垣下座 あふ のあふ

源氏おけにあり。垣鳥煖切音
ん。垣を吳音よあふとてあふ音

ねんなり。初四ね通してあふを
あふとあふあふあふあふあふ

圓座 あふ 圓鳥
拳切

惠具 あふ 万葉
野菜

壓面 あふ 和名咲窪
のあふあふ

醜 あふ 和名あふ
のあふあふ

醉 あふ 古事
記等

女葳蕤 あふ まあ
あ

和名

衛士 あふ 衛
切

中下の意

礎

ついでに... 礎の意なり

法華経 ほくごきやう

源氏物語流布の... 法華経

神代紀... 礎散を... 俱穢敷... 箇復... 紀を... 久惠... 又ほけ... 久以切

幾有り... 韻字... 靴繪... 次弟に

麻殖

ちまき... 和名何彼... 國郡名

鏝 かつまき

和名... 鏝の意

鹿杖 かせつと

和名

吉哉 ぎさ

和漢... 日中紀... 吉事記

あさきやーとあれい古事記よりの日本紀の志の字
 八助成なり。日本紀よりの古事記のーの字まゝ八助
 成よりの八助成あり。あさきやなり。こはな流あるよりのーを
 やーとあさきーのあさきーの助成よりの流あり。やさき
 正字ハ縦哉あり。そあハ万葉よりの不欲をさーとささ
 しーとあさきーあり。縦の字ハ不欲をさーとさささ
 まさきーとささきーのあさきーとささきーの思ひぬじかり
 ゆささーとささきーとささきーの流あり。流よきささきーとささきー
 ろかくの

手子 たかよき
 遊仙

空。又神代記よりの手端とかかり。タサキ
 のことなり。なまハなまよりの通してのなり

机 つくも
和名木器類唐韻云机案屬也史記云持案進
 食日本紀よりの百机飲食をささきーとささきーのつくも
 ものーとあさきーの和名文書具に書案ハ別よりの出ささきーの
 只つくもとささきーのおほくハ飲食具なるも今ハいささきー
 書案なるものつく
 ささきーの思ひあり

杖 つま
万葉和名つえ
 とかくへり

殖 うも
日本紀古事記万葉和名等の二同なり。万葉
 第ナメノ宇留とささきーのあさきーとささきー
 わかすまゝとめささきーの通ありささきー
 しささきーとささきーの思ひあり

飢 うも
推古紀聖德太子乃序ありささきーのあさきー殖
 に例とささきーの向のささきーとささきーと

ひかへしうゆ
しいかくへうす

黄精 ねがもみ やまもく

蹙散 くらゐらうかす 目本

聲 くらゐら わ

捐 こそす 本末

書案 ふらう わ

赤卒 あらゐむ 名わ

妍哉 あなよ 名

假名共
日本紀

平安 あらゐ 和名倭河
津名那

名原氏よあらゐら

胡黎 きらゐ 名わ

故 ゆゑ 万葉よおほし古事記よあらゐらゆ
しかくは得まわらうら改む

回惠也 たらゐ 万葉よの
やの略

失聲 ひらゐ ひらゐ
のさん 末 たらゐ

假髮 たらゐ 假髮
飾 周淮 たらゐ 和名上総
国那名

居 たらゐ 万葉よおほし集殖を字惠字
とくへすへ

たらゐ 陶者 たらゐ

和名居物
作なり

中下のへ 附
いふまゝにききを出す

古 いまへ

家 い

万葉和名集のい
とかくへり

鴿 いもも

兔葵 いもれ

草 いはり

出俗 いで

日本
紀

牲 いもも

蠅 は

白拂 はへり

和名蠅
拂なり

蠅虎

いもり

和名
蠅取

あり。蠅をよくえん小蜘蛛なり。蠅虎と云虎の能歎を捕
よひし名付なり。鴿を魚虎といふ。この同音の能
鳥を捉ぬ。又雌鴿を魚虎といふ。この同音の能
付しし名付なり。

胆 いも

和名蠅
子なり

攘 いもぎ

和
名

膚 はへり

皮方の
さなり

被 いも

被 けり

日本
紀

苞苴 い

日本紀
同和名あり

あつたまのさうはたきには朝のあつまたとから
いふの信つてよりいむいづれもいづれも

甚多 しくさ

日本紀
古語

方へ

万葉かたしつて
いふなすといふ

あり。又もさへいふは同一なるといふ音を用ゐる
しめく。いふもさへいふは同一なるといふ音を用ゐる

重へ

いふ二重なるいふは同一なるといふ音を用ゐる
ありていふは八隅浪なりかきこり平氏

太子傳曆は平群乃山を重粟山しかるを今の平氏
とけらりやまの地を八隅浪なり又けらり乃山
といふ八日平紀は系行天皇日向國伊湯神に
てよせたまふ思邦乃神效の末乃守り古事記は八日

平氏そのの師ありて平氏

し和ふハ知りさりけりや

囚人

さへいふ

和名

鎮

やうなる

日本紀并万葉のさへいふは
いふあり又長の字をいふ

るくいふあり。いふハ常なる

肌

かへ

いふは
いふは

推

かへ

いふは。いふハかへといふ。和名はいふは
いふは。いふハかへといふ。和名はいふは

と地をいふ。和名は本草云拍實

拍音

一名推子

推音匪和
各加倍

いふは。いふハ松栢の栢といふ。いふは
草綱目を考ふ。いふハ別なり。いふは
る。いふは。いふハ同名をいふ。いふは

擲倒 かつりうり 名わ 賽 かつりまうり

歸 かつる 申勢あふ集り 蛙 かつる かづる蛙

つらてまもりかつるを思ふは執りて思はつ
まて同申は蛙ハ対ふ春よなりてむくめさあ
魂のかくまらやうなれは還るまらよ名付る
かづりまらり河津と万葉よおほくかづりあ
あやまらまらわを業とまら者をあま
りまら川をわすむ思なれも助成をまら
まらりお名まらかつるまらおれかづり
まらハ名まらまらまらまらまらまら

鵲 かつる 卵 名 鳩 かつる 名

鹿蒜 かつる 和名越前國敦賀郡以名。まらまら山と

のまらまらまらまらまらまら。神名帳は同郡よ
加比留神社又鹿蒜田口神社あれはまらまらまら
かつるまらまらまらまらまら。まらまら
まらまらまらまらまらまら。大山乃坂
まらまらまらまらまらまら。山神白ま
まらまらまらまらまらまら。鹿
まらまらまらまらまらまら。まらまら
まらまらまらまらまらまら。まらまら
まらまらまらまらまらまら。まらまら

堪 たく

たふとつらつらり。公任をきんこふ。長能を
あつたふ。堪任とて堪能とつてきて今の

同

妙 たくあり

白妙打妙
書れる

譬 たとく

たとふを新よつり。假名よふことい
しつり。假使をたといひしつり。たとく

相叔 たく

和名叔
以拳加

しき同。よりてたとい
をたといふとつり
又也とあれん人をあむすあり
俗よのころしつりなり

苗 ちく

苗代の耐あり
いふめき通なり

並 ちくよ

万葉古今
書の何

蹇 ちく

和名あり。ちくしとの楷筋の下よりい
つるやうよ足瘻ハありす。説文を引

て蹇行不正也とあれハありなり。やうなるをちくと
いふなり。史記吳太伯世家云公子光詳為足疾入于窟室。
左傳云克傷足疾。方系にハ
足痛をあるへくとあり

筌 ちく

捕魚具
和名

上 ちく

表 ちく

衣外也
和名

袍 ちく

打延而 ちく

万

守瓜 ちく

和名瓜。蠅なり。其る甲の下に羽あ
りてむかひなり。瓜の守の字ハ

アテささ
れさなり

訃 うゝ

饗饗 くはく

和名筑前下府郡名饗饗の
字あくところめハけと略るなり

及轉 くゝへま

糸糸和名蠶絲具るなり。へしめと
通しれハくゝめくゆまの名なり

訓覓 くゝへま

和名安藝國
さま那の名

覆 くゝる

人のたつる時下るなり
とよなれをかくハいなり

屋遊 やのへ乃くけ

和名へハ
とるなり

山直 やまぢく

和名和泉國和泉郡名
國よやまぢくといふなり

前 まへ

上臣 まへみ

日本
紀

事竟而 くゝをて

系

意氣 ちゝる

日本
紀

者 てつり

何といふなりといふ詞なり。登以切知
なるなまちつりといふハこをさし

てと二四ね通してかくハいあるなり。糸糸葉よハ衣ちすて
かあといふてふをちあしといふなり。てふハ何といふ
といふ何なり。流して知るへ。けてつりハ句の下よ
つとて。句絶の辭なるを今ハ次の乃初よあかして

せびいよむるおちつる。世の字をなまりしよむ
 し成の字なりしのはあつす。げありハ何こよありと
 いふべきを仁阿切奈るあまうていふをなり。也ハ
 決らんをなれ何こよありといふはよむ。おつ
 うつふあまよまなりしよむ字なりしと思つり。
 万葉の假名の古きまはげ字をありし用ひる。
 有。位良峯朝臣^{ツ子}経也といふ人の名よげ字を用ひり。
 その比よりあま今いふしを考へしをさり
 くらよや古今集の假名よまはげと三代実録よあま
 しふんしり。漢て経世しからるあまあるハ似るなり
 まつるなり。者乃字しをさりしりてつりしよむ字よ
 ハあつす。世の字よ傍例をらてらる。云乃字をさ

ともむいかりしりりしよむ字なりしは假名
 久し乃よりあまて梵語乃はをいふをとりてさる

臍 あつり 和名

喘息 あつき

青蝦蟇 あびか 和名

與 あ あつるをあ
るしりす

蛙亀 あまかつ 和名雨あまかつてな
けえ雨蛙のこちなり

剩 あやのまじり

副 万葉 さく

和名あや。万葉の
并名共名さく

字を甲一く月より後撰よりあそつたよらねづうらぬ
やうと思へしとよめる。あそ今日さくになり。けあそ
へしよめる

囀 さくつら

和名敏達
紀は韓語

をかくさくけりしと述す。原氏よあまの地りしをさく
さくぬるすしとさくづりてしかかり。さくのぬら乃字と
うねたさくしてしあそ。よりしよりさくさくね
ド字わさくさくをハさくげらとしあそ

道祖神 さくのり

和名

佐伯 さくさ

佐伯八月
本名さく

假夷を討つとよひて生捕とてを攝磨等の國とよまら
おせたまつるを子孫なす。おせたまつるを佐
伯と名付し。おほし。佐伯直とて。氏ハ彼佐伯と
を治りし。めじぐ。あよをくれし。直ハ君也と。姓氏
録よんて。け字日本紀よんて。述す。けりあ。
あつと。述す。けりあ。おおさる。け代。実録よ。彼
國勝浦郡の百姓也。乃假名ハ費の字を可し。れし。さ
をさくまへて。併へし。さく。あねが。の。えハ。助。け。よ
加つ。ら。ん。い。え。と。述す。さく。あ。い。と。よ
さく。れ。し。字。な。れ。し。あ。い。と。述す。さく。さ。く。あ。い。
い。ハ。あ。い。と。な。れ。し。人。を。治。り。し。き。に
よ。あ。い。と。よ。ま。へ。し。い。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い。ふ。

来経行 きんゆく

古事記并万葉にあり。年月のまてに経ゆくるなり。清ゆくは

何しす経を字乃まよよめハ之をよまのさしし

なけれど能名なすれハ清打よやとあやまらるなり

あらんうため

よちくよあす

まよとかく

ハ後をより

往方 ゆく

万葉よむ

後 志りへ

万葉の

注連 志りくく

和名日本紀第一ノ六端出く 繩を志りくめハと息

ありへと

偏 りくよ

一重の

單衣 りくま

和名

人笑 りく

後撰 并中

勢家 集

中下のわ

はの音使よまうよあよあす。行阿の 假名遣よ我忘るしよよありてま

うらねをよあ

鱒

い

和名

半月 はよわり

和名 月内

典云五種不男其一曰半月俗訛之波尔和利これハ半月の二音をよめたるなりてはよりといふものなり

今案一月三十日半月ハそレ法根男ト云リ中月ハ女
根ト云ルルノカクク付トハ波ルハ半ノ音丹波ト云
ルカシ統波をなすハそレト云フコトハ
割ルテ二月を云フコトハそレト云フコトハ
和訓ハ

歴齒 はくろん 和名 大腸 ほろわ 和名
カラロメ 和名 ハク ハ
の義 ハ

百和香 はくろん 古今集 物名

小腸 ほそわ 和名 細綿 の 義
未考 わら 和名 糸

○ 和名 未考 わく 和名
此海撰明慧上人傳ハありこれハ
俗ハつとやぐるり。誑惑ノ音

和波のやうよ 和名 未考 わけ 和名
いひをせり 未考 わ 和名
衣のあれて海松とんつけ 和名 わ 和名
然ハとこの 和名 わ 和名
よわり 和名 わ 和名
和波 和名 わ 和名

上神 かんつ 和名
和名和泉國大鳥郡郷名あり三
痛ハけ國を依りあり

國は神の中よてハ大神よてマシマシ大神をこ
コトコトめハ今上の字ありあり大の神を略ト云リ
此式ハ大を郡ハ神ト云テ歛奉ラ今ハけハ
神ハ今ハけハをよわりハてマシマシ若の片云云

日郡は和田あり。これハ和名ニヒキ〜ことありを。ん〜
てみき〜ことり。つま〜同韻〜通〜ざ〜ら〜あ〜ず
結果 かくのあ〜

ハる〜な〜れ〜こと〜かな〜ら〜り。た〜今〜糸の〜終〜
かくる〜は〜思ひ〜〜れて〜と〜めら〜江次才の定る〜
乃假名万葉よ〜和名よ〜あわ〜れ〜又〜糸糸二〜
は安幡〜〜〜〜れ〜向韻相通。走の字は〜
とわ〜〜〜〜あり〜
ら〜冷〜〜〜〜
○ 未考 たわ 万葉又
た〜
俵 た〜
延元武よあり。假名ハ未考

撓 た〜

手弱女 たわやめ

たをやめ

蒺藜銜 う〜

宇和 う〜

浦廻 う〜

和名倭語 圃郡名
去へ〜寸又万葉よ儀回島回隈回里回裙回〜あり。
コハめら〜〜〜〜。又浦箕〜〜〜ハ〜
のふち〜〜〜。又丸の字を
コ〜〜〜。丸〜〜。車弱を〜
〜〜。海川の〜〜。和太〜の播〜
〜〜。〜の字を〜〜。

事^ニ凡^ク系^ル多^ク和^名。た^クあ^リと^シひ^トい^ハし^テお^もひ^シ。但^シ系^ノあ^リま^ハる^ルる^ル名^ハ、安^ク備^フま^ハる^ルあり^トと^シあ^リれ^バ又^ハき^レり^トあ^リと^シし^セ。

へー

白鹽 あつーは

和名。味^ハま^ハる

似^ルれ^バ味^ハ塩^トを

澤 あつわ

和名

佐和良義 さわらぎ

和名帳^ニ津^ノ河^ノ下^ノ郡^ニ佐^和良^義社^{アリ}今^ノ津^良宣^村と^シて^ハある^カや^らう^トよ^クか^けハ^レ假^名と^シて^ハい^はる^ル

て^ハな^らず^ハへ^ー。あ^リま^ハる^ルぎ^トい^はれ^バあ^リ。又^ハ字^ハ推^定る^ル。ね^んを^けば^ハ本^ノ名^をあ^りて^ハ名^付し^てい^はる^ル

騷 ささく

万^葉文^ノ日^本紀^ノ古^事

記^ハホ^トよ^クや^ぶり^トい^はれ^バ和^名と^シて^ハい^はる^ルわ^と同^韻な^ら通^{して}は^らぬ^ル

○ 名 未考 ささく

日本^紀仁^徳天^皇の^時あり^まあり[。]倭^よと^シて^ハい^はる^ル

く^ハや^ぶり^トい^はれ^バ騷^トと^シて^ハい^はる^ル

流黄 ゆのあじ

和名

い^とく^ハ倭^云由^王。これ^ハる^ルと^シて^ハい^はる^ル。同^韻な^られ^バ通^{して}は^らぬ^ル。万^葉文^ノ所^在を^なら^ぬ。今^ノ倭^ノ伊^王と^シて^ハい^はる^ル。い^とく^ハ通^{して}は^らぬ^ル。い^とく^ハ通^{して}は^らぬ^ル。い^とく^ハ通^{して}は^らぬ^ル。

神酒

和名

六神 こわ 三備

背腸 こま 和名

三膳 みのわ 和名

御面 みれ 和名

皺 しわ 和名

膝 ひざ 和名

鯉魚 りこ 和名

居 い 未考。但し

通 と

申下のは こま

岩 いわ 祝

出羽 でわ 母

波婆迦 ははか 舊事

古事 ここと 朱搦

記 し この波婆迦

柁 しほ 貝母

庭 のは

場 のは

鶏 はとどり

めいをななり。又一名をかけといふを催る樂よいにんき
 いかけるる。家雞カカなりといふを催るなり。古より記よ
 八千ホコ羽ハチ羽ホコの津ハチ津ハチの津ハチ津ハチかけらるくせよとせ
 一の音あ〜んやとい
 とよあ〜しに
 と〜くちら

俄 はとどろ

潦 はとたつ

庭 の 名

水あり。立水ハ泉なり。づよくわく水ハいさほひの所
 リハ立のほろなるなり。立水タテ飛水トビのる。仙セン々々律師リの方
 紫柳ムラサキあり。西ニあり。くもよたまる。水乃立
 水のこま出コくろく〜く〜なれといふはく

地膽 はとつ

鵲鴿 はとらふがり

名 の

地膚 はとらふ

并ナよサハ玉タマ帯オビ〜ゆめり物モノに事コトは〜あねど〜今イマ掛ケけ
 るる。定サ定テイを〜り。玉タマハ例レイのけらよをほめ〜るる。ふなり。
 サハ玉タマ帯オビをヲ思シ〜り。筋スジ〜り。初ハジメ子の〜ふハ乃ハ玉タマ〜

たしよめりハげまを法てかきけり帯なり。子曰ハい
とふるすなれハ帯の巻を拂ふこしく、もし過を拂い
んとまほくす。まほくすといふは、物をまほく
て歸つるをいふ。ちを拂ふよこひは、まほくすのま
といひ。まほくすのまほくすは、ちを拂ふは、
まほくすといふ。帯は、ゆふよのけりハ玉帯といふけ。
玉帯といふは、ゆつるをいふ玉帯といふなり。本は、綱目
地膚の下は爾雅をとりて王華玉帯掃帚掃帚落帚獨
帚等の異名をとりて、弘景曰今田野間亦多有皆取莖苗
為掃帚。ハ、ゆふよのけりて今掃帚をいへて、んへハ、
ハ玉帯といふは、まほくすといふ。
たし例。まほくすといふ。

燎

にまらび

和名度
火なり

膠

にうこ

黄皮の
我なり

贍

にまさり

鬪雞

ざりあひせ

和名
鶏を

まらびのまらびは、帯なり。飲合をいふ。
此よりすまらびハ、鬪雞といふなり。

磐石

とまらハ、かこひん

日本紀延喜式をいふハ、とまらハ、
よかこひんといふ。帯

磐石を古伊切炭たすれハ、とまらハ、
堅石をいふ。略してかこひんといふ。

禪

ちりん

和
名

道速振

舊事紀
古事記

ちりんやみ

日本紀万葉集神の統のこなす寸許ゆしとつけたり
やふり人し。ちこやんしよあり。万葉よ千^{ハヤル}劍破千石
破るし假字よかりりよ付て古來賣況ありと云々
つ。若ハふり。濁りているを。日本紀系系とむ。布
。字の字ハ用ず。てまの字をかし。又假
。よ。破の字を用し。委ハ別よ注々。

韮 ちくくかん カ華 ○ ま名 ぬいれふ

すぬなす 日本紀万葉集沿繩の義なり。沿よふ

のしこくふ地なれし。二つよハ沿よありて
滑らるる地のつきしれいら。か系よ地なの

らるるをぬるとし。み草のたらくひるか地をひら
ぬくし。しよあり。水よぬるとし。ぬくし。地を
滑らるるなれかりと。一義。俗よぬましくぬぬく
し。しよ通ふ。沿よらるるのなぬくし。なれ
し。ぬましくぬつけて
まよてハ一義あり

終 ちくく

尾張國 ちくくのな 章 ちくくかん

童 わくく ○ ま名 未考 わくく ○ ま名 未考

よ。嬰の字を用し。若ハ届りていひ
くくた。へ。ぬくハまのりす

禍 かきばい

皮 かき

蝙蝠 かはちり 名 和

骨蓬 かんぼ 名 和

顔 かゝら 名 和

賣子木 かゝちのま

和名。万葉よ山葛^{チサ}と只ちよ
しよの^{チサ}とちよとらふま

替 かゝら

女青 かゝね 名 和

り。ア者たうへまひるる。古今よ
かゝらととらふるをあらく女青とらふ

水苔 かはあ 名 和

尾 かはら 附 室か
うまは花

あめ^いかり。疏瓦つとかり。牝瓦
めぐり。牡瓦をかり。上お名

白蒿 かり 和名又ハ
るよし

草茨 かり 名 和
菊 かり 名 和

土器 かり 名 和
烏毛虫 かゝら 名 和

河伯 かゝら 名 和
衛矛 かゝら 名 和

廁 かどしや

和名かどしやくゆく。和名れはひふん。又
万葉集十卷よさきまよしとの地味歌
よして。よめる中よ。廁鮒しあるよ。川隅のらそあま
よあり。廁を川隅とよめる。八川の隅へけて他るん
と。地味八何
をとりあふ

裘 かどしやうし

和名かどし
ぬし

和名

合志 かどし

肥後國郡

和名

樺 かどしん

和名かどし
さくらうし

ひふくねるち。方なふよ。猫皮
とかきこてかよふんしよあり

傍 かどしやう

脇肋 かどしやうほね

和名片腹骨なり。傍し片腹
る。ハ傍骨を。ざらにてと

ひしやう

片羽者 かどしんりの

うつふ地味のそよ。夫よつ々てかどしんしよ。これ
ん。夫のか。この方のんね。たう。さ。ん。利。ある。と。地。味。歌。
まよ。り。か。ど。し。ん。し。よ。あ。ま。り。ハ。出。す。あ。り。と。夫。よ。ん。ど。
し。ん。の。り。わ。き。る。乃。ん。ね。た。れ。ハ。片。羽。を。さ。ら。に。て。と。

河を

草麻 かどしやうハ

和名

よ。又。う。し。え。し。し。り
韓柏 韓荏 荏なうし

結菓 かどしん

和名かどしん
江次

買索 かけちん

和名取
馬繩也

榘 柏

同 かけん

顛 かけらのうは

和名頭瓦の
さくらへ

夜 よん

日本紀おゆすと去へうす。只おをよん
とらふとわくれ人おゆすとよんをえ
してよんおをよはとらふとてお
ゆへかたり。おハ訓半ハ音。大きよ倍なり

齡 よはひ

風流士 たくれを

万

遊女 たくれめ

和名

結誓 たんく

日本紀
万系

輒 たんやす

古きよよめあり
常ハたやす

戲 たくれ

たくれ

靡 たん

日本紀

篁 たくり

お名たりしを倍よかくいよと
たくりハ竹村村ハ群のよな

ハ竹原なり

籜 たんちのうハかば

和名

偉 たくり

日本紀倍
よ津のい

ちんやをたくりといふ。出衆の
字よてたくりといふるへ

委 たくあつり 所疊 あり

蓄 たくらふ

酣 たげあふ

篋 たげのかえ

岨 そいん

志名假名甚未考。和名よは出さす。のり俗
流先ぶ隆つものさあよか。いそしよめら

片そハ
とばゆ

蕪甲 そくハ

和名後法園
山田郡ハ名

都波 つえ

出雲國風土記。きりよ
つえいしよふちさかん

擇食 つらり

和名つらりそハ者の本よしりよハ衝張
よや。そねを女につらりよ。和名よか

くかろんか。さるは本のとく。甲。く。て。あ。ち。い。の
と。き。お。ろ。し。と。ろ。い。お。て。ふ。い。と。ら。よ。ね。る。い。ー

兵 つらりの

兵器をい。つらりのとい。兵器をい
者をい。さるよ名付とのよ。常のたく

り

庫 つばものく

兵器

倉をい。り

都賀 つら

和名石見國
邑知郡ハ名

革 つらりか

和名

繩 なつん

ほ。と。は。し
通すれハ

の。り

躰 さいて

和名繩ハ
の。裁。る。り

鮪 なまこさば 名

苗代 なまこ 名

一 ろを 通

酢蟬 あじせみ 名

上國 うごくに 名

後妻 うごけ 名

上天 うてん 名

褶 うひ 名

鞍褥 くらり 名

和名くらり

團扇 うすあし

和名云々朝式云齋王行具翳十二枚
翳音旅計及和名波此翳を延式

よへさしとてとと並をり。或云よへ刺翳とかくり。万葉
十卷よへさし指羽のこもあよ二と山の翳し子うむと
よめり。翳の羽るしとてとれやうて羽とるあて
柄なうくしてさしかざせばはしとていふ。儀式な
らうらうらとよんで翳は似れは内翳の義と名
付らよ。團圓の字らうしよ義同し。和名よと唐令を
引て團扇方扇とらり方扇は射らうらとてわし
翳らよ團扇を音よとてあはしとてらの方初あると
のやうよらとてあはしとてら月のやうあは
しとてあはしとてあはしとてあはしとてあはし
らなうら。さうらとてあはしとてあはしとてあはし
おとてあはしとてあはしとてあはしとてあはし

腿 うらあつせ

和名

麗 うらうら

器 うつせんりの

和名 うつせんりの
のうらうら

馬杷 うまくそ

和名

御座 ねまうまう
ハオ

しき

歛 くせん
和名

桑 くせん
和名

○ 高名
未考
源氏物語

くせん
くせん
くせん

企 くせん

加 くせん

烏頭 くせん
和名

同 曲射

委 くせん

蛇 くせん

朽繩に似
れハ名付

鬩草 くせん

和名

柔 やり

黄耆 やり

和名

飢 やり
注 注代

和 やり

延式
云古語

廻 まわ

縫掖 まつりのうのまね 氣 けいひ

和名

不破關 ふしのをき 強飯 ころいひ 和名

猕猴桃 ころいひ 又ーく ち和右

栗 あいし 安房 あいし 古語於き 又阿波國

の齋部氏う梅つと位くらゐの名と云ゆれ公阿 波るんを後又文字を去かへてころいひなる

沫 あいし 万葉 才二 梳齒 あいし 和名 魚名

周章 あいし あいてあは つつさ月

臙 あいし 和名 阿憐 あいし

摠 あはき 日本紀并和名 續古今集 林狐於よ ト部を並よ西の海やあをきこの

京の塩浜よりあつれ出 すみより の津けらの こあをきしよあり かり かきあやまてるよやと

考つるよ下本の大小二が。 昔よあをきとさつりあり 淡 あはき

鱧 あいし 交 あいし

裕 あくせのきね 和名 味 あらばい

顯露 あくろ あろろ 洗 あろい 大和地 洗よ衣

せはふを いりり 愛甲 あめく 和名相模 國郡名

膨蝟 あいりう 和名 多 さく 日本紀并 万系吉波

黄菜 さはやけ 和名 松葉菜 澤蘭 さあらくま

又あうまらる。並和名蘭の字をあらくまといふ。いふはうらりまにハあらくす。蘭葱なり。あらくい

葱といふまは名付らん葱の和名ハまきといふ。あは倍流よこれをしとりのとらり。女たすといひ出せるとるへ。ねぎさけがかりぎらといひ俗語し。まハ塔出葱なり。齋文の忌祠の申よ塔をあらくまといふ。九輪のあらくり乃似るるへ。蔓菁るりのらくらるを倍流よ塔のらくらり。らくらよあをせて思ふ。和名よ葱臺をいひ。らくららといふ。今今の俗擬寶珠といふ物をかういふせらる。檜のよ乃花なり。いひまハ平葱をいひ。申よ葱ハ別種なり。和名なればいひまは葱臺ハ薑臺。薑ハ塔乃らるをいひ。又擬寶珠ハ葱の春ありるりて。まよ花乃出まて。用らるよいひ。似るる。用

惹キしとい

へるよ

障 さつり

月水 さつり

和名月夜あれハ縁より寄る障あり
あるは倍よかく名付らなり。風雅集

よ縁神津跡和泉武彦よちめ一終いから津りあるよの
月のさつりよといよとせしつり。古事記よ日平
武尊尾張國よてミヤス養姫のえのすすよ月水のつき
たつちと津覧一して。さらりのすすよ月たらるるり
とよとせ
終つり

雜多 さつり

和名佐渡
團那名

早良 さつり

和名筑前
團那名

痕 さつり

和名俗ミハ
つくといふ

これ
あり

際 さつり

さつりゆのりといふ
側さつり

黄蘗 さつり

皮を用うれハキダ黄皮也。肌をレつてと
しかなへといよめがレつてとかなへ

究 さつり

一万葉よと
つてといふ

り
よめ

鞞シ輶シ ゆさつり

和名

罔象 さつり

日平
紀

汀 さつり

水際
あり

醜 さつり

俗沈よ未考は。陰早をほつてハ
通一やとゆと又通一してかく

いりり。のり。し。ら。塩。の。味。の。さ。し。出。し。る。を。い。つ。り。和。名。よ。大。は。醜。の。字。を。か。し。し。し。め。り。

塩穴 志ろふ

和名國大鳥羽よありこれハ志はは
かしりしつを保阿及彼あれはつ

めてかくいするり。和名よ大之保乃阿奈とあり。塩飽
崎を志ろふしつめを志ろふは冷しつて知へし

咳嗽 志ろふ

十二月 兼 志ろふ寸

穴粟

穴誤 作完

志ろふ

和名搗磨國郡名志ろふあそと
しつろふを志阿反依なれん

つめてかくはつり。俗よハ志ろふのしつろふり。穴
麩と同訓なれん。麩よかわりや。但馬國朝来郡よ粟

麩 郷あり。麩ん粟よつくとお
るれハ同義我たろへし

琵琶 びん

枇杷 びん

檜皮 ひん

志ろふ

膝躰 ひさのからし

和名俗よひさかしらるり。かろしとハ
し乃かしら乃はしとハ同からし

約 せん

この字留りてはばく
ししつろふを志ろふ

びてせん
しつろふ

諏方 せん

蘇枋 すんこう

周防 すんこう

後日本紀
防作芳

儵 すんやう

和名俗
楚割

洲濱 すんやう

登時 すんやう

繩墨 すんやう

和名

中下のう

しんやうとのわよ甲。これハ急展
なすしんやう殖をうししんやうむおハる
便又ハ音はてしんやうてハハよあるべしす烏尻
なすしんやうあるハまぎされぬと少く出す

痛 しんやう

け類のくをやりけ
てしんやう例一て同

時世粧 いまやうすん

白氏文集やうハ様のもる
あり装をまよのかうと

いんやうはよあるしんやうわ尻よハ
まろ刑をまよしんやうあるなり

妹

いんやうとまろやうやうしんやうよハ
さしんやうまろやうてしんやう
あしんやうまろやうてしんやう
あしんやうまろやうてしんやう
あしんやうまろやうてしんやう

いんやうはよあるしんやうわ尻よハ
まろ刑をまよしんやうあるなり

線衫 ろんやう

くろ

いんやうはよあるしんやうわ尻よハ
まろ刑をまよしんやうあるなり

庖丁 はうちやう 葬 はうちやう

蘇枋 寸くさう

周防 寸くさう

後日本紀
防作芳

儵 寸くさう

和名俗
楚割

洲濱 寸くさう

登時 寸くさう

繩墨 寸くさう

和名

中下のう

しんじりとのわよ甲。これハ急展
なすしんじり殖をうししんじりむかひる
便又ハ音はてしんじりてハハよあるべし寸鳥爪
なすしんじりあるハまぎされぬと少く出ず

痛 じんじり

け類のくをやりつけ
てしんじり例して同

時世粧 いまやうすし

白氏文集やうハ撮のよる
あり。雲をまよのかうと

いんじり〜はよある〜わはよある
ま刑をま〜し〜る〜あるなり

妹 いもやう

いんじり〜とまやうやあやうよいあよ
人あり〜わよ〜くま便のう

あ〜し〜と〜

線衫 ころも

さん〜と〜き〜あ〜りのう〜通
〜てかくいよ。ち位の袍のくみなり

庖丁 はうちやう 葬 はうちやう

判官 んこうくえん 古 拍子 ぱうー 又いやう

間人 氏 ばーう 間をりーとよめるははーたの
きこなりあらはるうんちやう

かろくはばーいさちちをりーとらふたあ
りの者のあらはるうんちやうは今の間の我なり

玄蕃寮 ぼうー あららららららら
わろく玄蕃
ハ傍と蕃

客とををつらさどりなれはけわ名あり玄ハ佛法の深玄
の我をあるは衣のうんち蕃ハ藩と通す藩屏の我
るうんちやうて日本紀の點よかくわらまのきこし
よあり今の世番の字は傍らるうんちやう

ハ日本紀は傍の字をほろーと點をりはは師の音を
とて和訓とせらるなり。それよどりてはハ入るれハ
漢音ハはハ吳音ハはハあれハはハあーとてかく
へくれとちうーとかくは傍ははら。又聲を
たて韻をとんとあれハあれの聲よ
ハあーと韻のうんちやう

捧物 ほうり さーげわのちかろろの日記
るうんちやう音よしかま

陪従 ばいどー 癩疽 へうそ わ

豹皮 へうのか 於ま集物名豹のわ名かろり
かみ日本紀は虎をよ狼を

貴神カミキといひつゝハ虎をよき〜根
をとりて中津神ナカツといふや

裸紙 へりー

慟 ちきさりかうふり

わ名婦人の冠なり。織具よ勝チキリあり。その
なかりにさうりあり。よて勝冠チキリといふや

龍膽 アとうたう

え真ふ集る〜あり。ア
〜あり。音なり。ア

たう〜

林檎 アう〜

出りハアん

天 をう〜

○ ミ名 くれとかう 名 櫻浦 かりら 名 わ

又云櫻浦采、陸詞云楊音軒加利楊子、櫻浦采名也
今俗よかりさうつ〜は変ハばれん

括樓 かつすうり わ名 烏瓜ウカ根よ付て名付
たりん。まよ付て名付〜ん

根よ〜 名 馨 かりり 名 日中
〜ん

方葉よ〜 名 香細カグ〜 名 山花細ヤマカ〜 名 伽愚破志カグ〜 名 紀并

箝を略して格ふる。て用らる。九かく。ていよ
へきをとうくを相通してがう。ていよるわ

昨夜 ようへ

一カ葉うハる便るなり。土佐日記并
志願よんへとあるをよる便るなり

を然しきりのてとるわ。ゆへていよハよう
への片こるをよる人のちとるわ。日本紀よ
此夜をきすすといひる
葉うハるわ。ていよるわ

鉄鉾 たちようへ

名 和

鉄鉾ハ姪電二音とあれ
ハたちよハ二音の記と

疊紙 たくうかこ

日本紀和漢のやうかこすと
ていよていよるわ。ていよの字

相似 たくうわり

のこ
多氏峯 たうのいね

日本紀よ六田身とかきてたむとよめり身狭をむ
さしとよめとむとむと通とるなり。葉よ
たむの山とよめり。武とむむる
をたうていよるを同韻相通なり

專 たうめ
日本紀并和名しつりの古語るなり
又老女をいり。日本紀よたくめと

あれたうめハ
うく相通るなり
冕 たまのかうやり

名 和

寮 れう
力彫
切
陵王 れうこう

名 和

めま

くわ

きん

大臣 於ほいまうち

大史 おほいさう

くわん

和名さうりくえん
ハ佐友ナリ

太政大臣 ねほまお

ほいまうちき

和名よハおほまうら
しとのおほまらき

弟 おとつと

意宇 ねう

和名出せ
四歌名

黒方

名 薫

くわらばう

貂螯

くわくばう

和名彼うまくわ
をりて名いさり

苑人 くわらうと

薰衣香 くんいかう

くのえかう
ししあわ

芸 くわのかう 和名あよ
まらり

八日 やうり 古
今

漸 やうくや

司旂

まのしあう

和名
的申あわ

客人

まのらうと

稀人
くらゆまういよ

大夫 まうちま

日本記

望陀 まうた

和名と総國郡名有り。そうらり
出の布をい望陀といふ。日本紀り

馬來田ウマまうた 望陀の二字よるせり

詣 まうげ

まがてといひ。万葉よるま
あてといひあり。おとらてといひ

まう通 一てまうげといひ。俗よ六神佛の
わくまぬをのこつとていひ。おとす。右今に月
たかりといひ。まうげといひ。ま
まのうでまうらにあり

儲 まうけ

まげといひ。俗よあまのい
て利をうりを金をまうけとい

ひ子の出来しをい子まのうけといひ。儲副と
てまうけといひ。又儲畜とてたくをいひ。ま
金をまうけといひ。まうけといひ。ま
まのうけといひ。まのうけといひ。ま
つらへま出人出ま
てまうけといひ

申 まうす

まうすといひ。ま
まのうすといひ。ま
まのうすといひ。ま

興 けう

浮線綾 あせんわう

徹道 こだう

和名小道也。徹音叫。おたをいひ。こ
こたといひ。おたをいひ。徹の音をこ

としいか
せらるるを

紅梅 めうばい

於き
集也

名よき乃子うはつてうらまんしすらんしかくを
るはをとうと通しれは子をはしつみなうまうす
をまをさすといはるはをばをいししし
よはうへんはくさるいしし中へまもるや

後涼殿 めうららめん

指人 こまうと

兄公 めうう

初右
小舅

か
了

女公 こばうめ

初右

小姑
あり

手水 てうづ

鉶子 てうり

鉶ハ徒吊反初名さしるる又さす
るる俗よるよりりむ備いれ

昭切とあれハ音えらるなり但万もよさするるは湯
せしはししとふめり初名よ四聲字苑云鉶焼器似鉶
鏡而上有鑲也唐韵云鉶鏡 鳥二月二音漢語
抄云和名同上 温器也とあれ
ハ万もよ初名よいしはかきり今てうりしし
と名ハ同くしてあまのり
れり持してあまのり

相人 さうめん

造果 さうり

初名安藝國
賀茂郡々名

箏 ささうのこし

琴箏とよよこしとるもあよ
まんのこしとさうのこしとい

りくわ
うりさう

相馬 ささうま

和名下野
國郡名

○ 美名
未考

ささうく

さびくしを音便よ
てかくいり万あよ不

樂しし不怜ししかさてさびくしとよめさうさく
とあるのこしをいよあさぶがくろ美名のやうよ
へしつれくしとあれいたのくしすおりくろ
ぬあよ摠をりて別よ名付たり。怜ハ憐を借て通し
てかくり音義ししよ
憐のこしよあさうす

菖蒲 ささうぶ

和名
あや

め。とるをとかやうよいひあよ
すハ和佐のおいひなり

想夫憐 和名 ささうあねん

相府蓮なすり
いふ説あり

曹司 ささうし

精進 ささうじ

草子 ささうし 或

雙紙ししかくり。草ハ草案のこし。雙紙ハ俗の暗推
し。てうろろ字るくし。或密山宗の申古の先達の
かろろあよ冊子とありき。そよまよしてえ思ひあ
す。ささうしをとお通し。ていさるなり。これ正字を

薔薇 ささうい 古今集

酒給 ささうたうべて

馬道 めだう わな馬道
之道也

馬腦 めらう わな馬腦
とらう

御八講 めんかう 講古
頂切

襪 めんかう わな
らう

ちんかうのしんをきくはかくし
て同韻よて通す。そは下音なり

舅 めんかう わ
な

姑 めんかう わ
な

祝言 めんかう 祝ハく六切音
てやうくをてりしなり

蹴鞠 めんかう 蹴ハ千陸及ちくるるをかくし
ん祝言より同。わなは蹴鞠を

日向 めんかう わな京行紀のこころに
向ふ回すれは日向と名付らむと

いさきんむむとて同韻よて
通すれはめんかうなり

帽額 めんかう 江次
第

物言 めんかう わな雄鷹
のななり

わのた まのいなり
夫を兄といひ婦を妹といひ
ぬをいひやのしるしよそく
てのあり見といひも

はくはの字の音の略也

兄 せうりしと 小掛子 せうりしと

消息 せうしと 逍遙 せうしと 思道

遙切 遙 翼招切 水精 すいしやう

少納言 すなごころのまうりし

居 すう 宿曜師 すくえうし

曜余 照切

和字正濫鈔卷四終

世間云未利古由と流す。古申ハ蹴の字よあつたり
こしけとみよ通す。万葉よるとゆと同韻よて通
をりるりおほし。所^ナ泣をさるゆ。所^ス忘をさるゆ。日本紀の
しよあり。これよれハけりるり。日本紀の
皇極天皇紀よハ蹴鞠のしを打毬とかきつたりあり
くゆしよあり。こしけと通す。此ハこれしまりけ
るるり。神代紀よハよといひし蹴散をくらむら
らかすしよあり。蹴をすくよけしといひて
どうくよあり。こしけと通す。和名よ打毬のしよ
云唐韻云毬 音求打毬内典或謂之 毛丸打者也云々又毬杖
のしよ云辨色立成云骨槌 竹花反打毬曲杖也 毛丸 打也 とし
つちやうといひあり。毛丸といひハ蹴るなり

蹴鞠のふよ別よ也。杖をもちて打と足りてけり。毛
丸と鞠と。おしたくひる。し遠つるを。打鞠をや。ありと
とある。りおほつる。鞠ハ鞠と申。和名よ内典
といふれ。くハ梵網。ゆるり。順の。れ。本よハ
拍鞠と。あり。流布の。ハ拍鞠とあり。鞠の下
よ孫。恠之。今。通謂之。毬子。とあれハ。鞠。毬。同。一。也。あり

紙老鴟

とらうり

和名云。辨色立成云。紙老鴟
世間云。以紙爲鴟形。乘風能飛

一云紙鴟。いまの世のつるのぼけり。又ハはけり
だ。とる。し。い。つ。と。紙鴟。乃。き。制。なり。

史生 ちやうり

和名云。俗
二音如賞

